

## 総合的な教育機能を有する特別支援学校に向けて、知肢併設における肢体不自由教育の教育課程の検討



千葉県立矢切特別支援学校

電話 047-312-3010  
FAX 047-312-3012

### 研究のポイント

現在知的障害特別支援学校である本校が知肢併設となる準備として肢体不自由教育に関する研修を行うとともに、知肢併設である特別支援学校の教育課程及び教育環境について検討を行った。

#### ■学校の概要

<https://www.chiba-c.ed.jp/yakiri-sh>

平成27年度開校の小学部、中学部、高等部を有する知的障害特別支援学校であり、千葉県北西部(東葛飾地区)に位置している。本校は、県立つくし特別支援学校からの分離で、松戸市の西半分を学区としている。児童生徒数は84名でスタートしたが、年々増加しており、本年度は156名である。市内には本校の他に県立つくし特別支援学校(知的)、県立松戸特別支援学校(肢体不自由)の3校の県立特別支援学校がある。

第2次千葉県特別支援教育推進基本計画により、総合的な教育機能を有する特別支援学校として、令和4年度より肢体不自由の教育機能を有することとなっている。

#### ■研究課題

総合的な教育機能を有する特別支援学校の展開に向けて、知肢併設における肢体不自由教育の教育課程を検討するとともに、地域の障害のある児童生徒の教育的ニーズの把握や各障害種の専門的な支援の在り方等、具体的な取り組みを通して将来の展開を考察する。

#### ■研究の目的と方法

##### 〈目的〉

地域の実情を踏まえ、肢体不自由教育の実践を学ぶとともに、児童生徒の多様な教育的ニーズに対応するための学校機能の充実を目指す。

##### 〈方法〉

##### 1 肢体不自由教育の研修

- ・千葉県総合教育センターが作成した「基礎から学ぶ肢体不自由研修」のコンテンツを基に行う。
- ・肢体不自由特別支援学校で行われている基礎運動の研修を行う。
- ・肢体不自由特別支援学校での実践を学ぶ。(ビデオ研修、参観)
- ・肢体不自由特別支援学校で使われている教材を校内で展示する。

##### 2 教育課程の調査

- ・知肢併設である特別支援学校の実践を調査する。

##### 3 関係機関との連携

- ・今回の知肢併設に直接関係する3校の連絡会を行う。

## ■ 研究概要

### 〈実践〉

研究指定の2年目である。昨年度は本校の現状の把握として、校内の施設設備や本校の教育課程をもとに肢体不自由児童生徒の学習場面を考えていった。今年度は肢体不自由児教育の研修、他校の実践調査を中心に行った。

#### 1 肢体不自由教育の研修

- ・「基礎から学ぶ肢体不自由研修」を担当した経験のある職員を中心に内容を研修2回分に精選し、2回をそれぞれ2会場展開で行った。豊富な内容から必要最低限の内容を選び、コメントを考え直す作業は難しかったが、研修後のアンケートには「基本的な内容が分かった」「大切な内容なので毎年行っても良い」との意見が複数書かれていた。
- ・肢体不自由特別支援学校で行われている基礎運動に関しても指導を行っていた職員が講師となり、肢体不自由特別支援学校での経験のある職員が補助する形で行った。実技研修なので会場の人数を減らすため、2会場同時展開とし、講師のいない方の会場はビデオカメラの映像を大型TVで見ながら行った。普段意識していない身体の動き、重心移動等を学ぶことができた。
- ・肢体不自由特別支援学校の様子を知るために、松戸特別支援学校の学校紹介ビデオをお借りして職員研修を行った。具体的な児童生徒の姿を見ることで、学習内容や学習環境を考える上でとても参考になった。また、特別支援教育コーディネーターが松戸特別支援学校を参観した。多様な食形態の給食やコロナ対策、自立活動の取組について説明を受けた。

#### 2 教育課程の調査

- ・県内の知肢併設である特別支援学校にアンケートを依頼し、授業の形態、教室の使用の仕方、準ずる教育課程の有無、高等部の入学選考について調べた。知肢併設の特別支援学校における教育課程についてイメージが持てるようになってきた。

#### 3 関係機関との連携

- ・松戸特別支援学校の過密化解消対策として関係する野田特別支援学校、本校と松戸特別支援学校の3校で連絡会を行った。その中で、新たに示された通学区域案の確認、2年後に向けての各校の取組状況、今後の課題等について話し合いを行った。3校が足並みをそろえ、取組の方向性を確認しながら進めていくことができた。

### 〈成果〉

- ・肢体不自由児教育の専門性に関する研修を行い、基本的な内容についての共通理解をすることができた。
- ・肢体不自由特別支援学校の実践や知肢併設の特別支援学校の実践を知り、今後検討していきべき教育課程や学習環境が分かった。
- ・松戸特別支援学校、野田特別支援学校と本校の3校で連絡会を行い、肢体不自由を持つ児童生徒の受け入れに関して必要な情報交換をすることができた。

### 〈課題〉

- ・本校に転校してくる松戸特別支援学校の児童生徒の様子を知り、学習の継続を考慮した教育課程を編成すること。
- ・肢体不自由児童生徒の様子を共通理解するための検査等を検討すること。
- ・肢体不自由児教育に必要なICT機器や教材等の研修を行うこと。

## 関連資料

- ・第2次千葉県特別支援教育推進基本計画 千葉県教育委員会 平成29年10月策定
- ・基礎から学ぶ肢体不自由研修 千葉県総合教育センター

## 【講評】

### 矢切特別支援学校の実践について

昨年度に引き続き、総合的な教育機能を有する特別支援学校の体制整備に係る取組を行っていただきました。

今年度も、計画的に肢体不自由特別支援学校との連絡会を実施し、各校の現状と課題について情報を共有することで、知肢併設の特別支援学校に向けた体制づくりが進んでいます。

特に2年目の今年度は、教職員の専門性の向上を目指し、肢体不自由特別支援学校の教育課程を中心に、自立活動の「身体の動き」の指導を中心に研究を進めていただきました。職員研修会では、肢体不自由教育の教育課程について講義の他に、身体の動きのアプローチについて実技研修を行いました。

今後も、教職員の専門性向上を図るために、肢体不自由教育に係る研修を積み重ね、実施するなど、多様な障害種の児童生徒が学ぶ特別支援学校の一人一人のニーズに応じた教育課程の編成に取り組むことを期待しています。